

第2章 第2次活動計画の内容と主な成果

第2次活動計画では、7つの基本目標を設定し、5か年ごとに実施計画（第1期、第2期）を策定し、平成25年度は最終年度となります。取り組み内容とその成果は以下のとおりです。（数字は平成24年度の実績）

基本目標1 「知る・つなげる」

行動目標	社協の取り組み	活動の成果	今後の課題
<p>◆地域の保健福祉の情報を知ろう、伝えよう</p> <p>◆保健福祉サービスが必要な人にサービスをつなげよう</p>	<p>・社協広報紙（「ハピネスなかの」）を発行、ホームページの定期的な情報更新。</p> <p>・対応困難な相談事例の検討会、相談担当者間の定期的な打ち合わせの開催。</p> <p>・権利擁護事業による判断能力が不十分な高齢者、障害者等への支援の強化。</p>	<p>・広報活動の充実により、事業や講座の問い合わせが増え、参加する区民が増えている。</p> <p>・職員の総合相談担当者会を設置し、担当者間の情報共有を個別支援に活かすことができるようになった。</p> <p>・困りごと支援事業実施により総合相談機能の強化につながった。</p> <p>・権利擁護事業の利用者が認知症の高齢者を中心に60名となり、年々増加している。</p>	<p>■ 区民活動センター単位の住民・福祉関係機関のネットワーク会議が設置され、福祉情報については情報が得られる環境が整い始めている。</p> <p>■ しかし、地域の中には情報はあっても伝わりにくい、あるいは活用方法がわからないなど、適切に情報を得られない人がいる。</p>

基本目標2 「学び合う・考える」

行動目標	社協の取り組み	活動の成果	今後の課題
◆わたしたちの問題、暮らしについて学び合い、考えよう	◇福祉施設、NPO団体等の協力を得て、講座を開催。 ◇積極的に区内の学校や、関係団体へ福祉に関する講座への職員派遣や、講師の紹介を行う。	・グループ作りを視野に入れた講座を開催した結果、自主グループ化し、3グループが活動を継続している。 ・区内ボランティアグループ、区内小・中・高等学校、生涯学習グループ等、他団体主催の研修会に出向き、地域福祉活動への理解を上げることができた。	■ 中野区やNPO団体、他の社会福祉法人等で福祉に関する講座の開催が増えている。 ■ 今後は地域の福祉ニーズを学び、地域福祉活動を継続できるようプログラム開発を行う必要がある。

基本目標3 「つなぐ」

行動目標	社協の取り組み	活動の成果	今後の課題
◆子どもたちを身近な地域活動につなげよう ◆ボランティア団体同士や施設、学校が手をつなごう	◇区内小・中・高等学校が取り組む「総合学習」への支援や「夏！体験ボランティア」の実施。 ◇ボランティア同士の交流事業として、毎年度6月に「スマイル福祉まつり」を開催するとともに、ボランティア同士の連携作りを行う。 ◇ボランティア活動や地域活動団体の情報交換会の実施。	・「夏体験！ボランティア」は毎年度100名前後の参加者となり、施設等の受け入れ箇所も増え、福祉体験、地域活動の理解が深まっている。 ・「スマイル福祉まつり」に35団体が参加し、相互理解と日常的な連携の基盤をつくることができた。	■ 子どもの参加が増えている。今後は学校と社協、地域のボランティアグループ、施設との連携を深め、効果的にボランティアを育成することが必要である。 ■ 地域課題の解決のため、区民活動センター単位等、地域をフィールドにしてボランティアグループ、NPO団体が、ネットワークづくりを進めることで、地域課題の解決の力を向上させる。

基本目標4 参加する

行動目標	社協の取り組み	活動の成果	今後の課題
◆様々な世代がボランティア活動に参加できる輪を広げよう	◇登録ボランティアへの活動支援、講座の開催など通じての活動機会の提供。 ◇東日本大震災後の被災地支援、区内避難者への継続支援。 ◇ボランティアグループ、福祉施設の一覧を作成し、活動希望者へ情報提供の充実。	・登録ボランティア有志をスタッフに、交流の場を定期的で開催し、活動の振り返り、情報交換をとおして、新しい活動へのステップとなった。 ・東日本大震災被災地支援には活動の参加が初めての方も含め、若い世代を中心に232名の参加となった。 ・登録ボランティア数は500名前後となり、若い世代、団塊世代を中心に幅広い年齢構成となっている。	■ 東日本大震災においては、若い方を中心に、これまでボランティアに興味がなかったという方が多く参加した。 ■ 多様な価値観やライフスタイルが支持されている社会状況を踏まえ、ボランティアへの呼びかけ方や活動内容も含め、多様なプログラムや活動のメニューの開発が必要となっている。

基本目標5 つくる

行動目標	社協の取り組み	活動の成果	今後の課題
◆世代、障害等を越えて、気軽に集える居場所を身近な地域につくろう ◆健康でいきいきと活動できる場をつくろう	◇区民の協力を得て「まちなかサロン」を設置しており、現在19か所に広がっている。 ◇高齢者、障害者等の当事者団体や区民の自主的な交流の場づくりを促進するため、助成金等での支援を行っている。	・区民の自主的なサロン活動が開催され、交流の場づくりや参加者は広がっている。 ・歳末たすけあい募金を財源として区民の自主的な交流活動が活性化しよう、59団体へ助成を行っている。	■ 居場所づくりや交流の場づくりに取り組む区民と社協が連携し、運営上の課題を解決する場を設け、活性化を促す。 ■ 地域福祉活動の解決につながる活動を優先するなど、助成金の基準の見直しを行う。

基本目標6 ふれあう

行動目標	社協の取り組み	活動の成果	今後の課題
<p>◆ 様々な世代が声をかけ合い、顔の見えるまちにしよう</p> <p>◆ 一人ひとりの生きかたを尊重しよう</p>	<p>◇ 「地域担当制」を設け、区内14地区に事務局職員を指名した。地域住民、団体等の会合に参加し、地域課題の把握に努めた。</p> <p>◇ 町会・自治会の交流事業については、地縁を広げ、つながりをつくる重要な取り組みとして、歳末たすけあい募金の助成金を通じて支援を行う。</p> <p>◇ 権利擁護事業による判断能力が不十分な高齢者、障害者等への支援の強化及び成年後見制度の利用促進。</p>	<p>・ 地域の住民の方に社協の周知は徐々に進んでいる。</p> <p>・ 町会・自治会への助成金の申請数102件となり、地域の交流活動が活性化されている。</p>	<p>■ 町会・自治会が行う支えあい活動が活性化する中で、その活動を支援する体制づくりが必要である。</p> <p>■ 首都直下型地震発生時にも住民による相互援助活動ができるように、日頃から顔の見える関係づくりをさらにすすめる。</p>

基本目標7 行動する

行動目標	社協の取り組み	活動の成果	今後の課題
<p>◆ 行政で解決すべきことと、地域で解決すべきことを住民と行政と共に考え行動しよう</p>	<p>◇ 中野区が進める地域支えあい活動推進のためのネットワーク会議へ参加し、地域課題の把握と社協の役割を明確にする。</p> <p>◇ 各分野別ボランティアグループの連携に取り組み、活動種別ごとに懇談会、情報交換会を開催している。</p>	<p>・ 事務局職員が各地域の会合やイベントに参加し、住民の顔が見える方との関係作りに努めた。</p> <p>・ 平成23年から中野区で設置されたネットワーク会議に地域担当職員が出席し、地域課題の把握に努めている。</p>	<p>■ 地域担当制については、10年を超えて、社協を周知する良い機会とはなかったが、信頼関係を築くまでには至っていない。</p> <p>■ 区民活動センター単位のネットワーク会議へ参加しながら、地域課題の把握に努め、行政、住民と連携し、福祉課題の解決に取り組むことが必要となっている。</p>